

学校名: 聖ドミニコ学園小学校 名前: 松本芳將

対象	6年	単元名
科目	理科	自然とともに生きる
時間	2時間	目標
参考資料	その1 海洋汚染問題の現状と原因を理解する。 その2 海洋汚染問題を改善するために、自分に何ができるか考える。 その3 知育菓子作りに積極的に取り組み、ビジュアルブックを活用して海洋汚染問題に関する自分の意見をまとめ、それを伝える。	
『あおいほしのあおいうみ』 『つかめる実験！ ふしぎ玉』(クラシエの知育菓子)		

期待できる学習効果

- ・その1 海洋汚染問題の現状を知ることができる。
- ・その2 海洋汚染問題を身近に感じ、解決するために自分にできることは何かを考えるきっかけになる。
- ・その3 海洋汚染問題について知育菓子、ビジュアルブックといった魅力的な教材で学ぶことができる。

授業内容

授業内容や授業のポイントなどを教えて下さい

まず「SDGs」をキーワードに、そこから「海の豊かさを守ろう」というテーマに子どもたちの学習をつなげます。JICAがYouTubeで公開している動画を視聴し、それをもとに、海洋汚染問題の現状について学びました。身近な海がとても汚れていること、多くの海洋生物が犠牲になっていること、マイクロプラスチックという人類にとって新しい問題が発生していること、それらについて説明をした後で、それらの問題を解決するために新しい素材が開発されたことを伝えます。

授業の後半はクラシエが販売している知育菓子「つかめる実験！ ふしぎ玉」作りをしました。この知育菓子には、イギリスの学生が開発したプラスチックの代替素材「オーホ」が使われています。身近な場所で販売されているお菓子作りを通して、地球を守るテクノロジーについて学習しました。なお、授業でお菓子を取り扱うことについて、事前に食品アレルギーの有無を確認したり、除菌ティッシュ等を用意して衛生面に気をつけたりしました。

学校名: 聖ドミニコ学園小学校 名前: 松本芳將

授業内容2

授業内容や授業のポイントなどを教えてください

前時で学習した海洋汚染問題の1つのテーマとして、プラスチックごみ問題を取り上げました。我々人類はとても便利な生活を送ることができているけれど、その便利さを続けていたら地球がごみだらけになってしまい大変になってしまうことと、海洋汚染を食い止めるためにプラスチック製品を制限したり、リサイクルをしたり、環境負荷の少ないプラスチック製品やプラスチックの代替素材が開発されたりしていることを説明しました。そのうえで、ビジュアルブック「あおいほしのあおいうみ」を参考にしつつ、自分たちが海洋汚染問題を解決するためにどんなことができるかを子どもたちに考えてもらいました。

思いついたアイディアは学習支援アプリ「ロイロノート」にまとめてもらい、提出箱に提出してもらった後、発表できる児童に自分の意見を発表してもらいました。「エコバッグを持ち歩いてビニール袋を使わないようにする」、「ペットボトルを買わずに水筒を持ち歩く」、「できるだけプラスチックではなく木を使った製品を買う」など、プラスチック製品を使わないように気をつけたいという意見を発表する子もいれば、「ゴミの分別をしっかりとる」、「ゴミが落ちていたら拾う」など、ごみ問題について意見を発表する子もいました。最後は2時間通してどんな学習をしたか振り返り、授業を終えました。

子どもたちの反応・感想

海洋汚染について、話には聞いたことがあるけど身近な問題として考えたことがなかったという児童が多くいましたが、身近な海や川がゴミだらけになっていること、細かく分解されたマイクロプラスチックを私たちが知らないうちに摂取してしまっていること等を授業を通して知り、たいへん驚いたという感想が多く寄せられました。最新の研究結果では、マイクロプラスチックが心臓病や脳卒中のリスクを高めるという報告もされており、そのような話を聞いて初めて自分事として海洋汚染問題、ゴミ問題に興味をもったという児童もいました。

授業の前半は子どもたちが不安を感じるような内容になっていますが、プラスチックゴミを解決するために新しい素材が開発されていることや、積極的にリサイクルをしたり、プラスチック製品をできるだけ使わないようにしたりすることで、海洋汚染問題、ゴミ問題を解決しようとしている人がいたり企業があたりをすることを知り、自分たちもそのような活動に参加してみたいと前向きに考えることができた児童が多くいました。途中で取り組んだお菓子作りのワークショップをしたり、ビジュアルブックを読んで感想を分かち合ったりする活動も楽しかったようです。授業2で自分の意見を発表する際には、小さな事かもしれないけれど、自分にできることをやっていきたいと発言する児童もいました。